

お 「わたしの推し！」

この本おすすめコンテスト in いながわ

こどもの部

★おすすめ本の紹介文（6作品）★

6作品の紹介文を読んで、その中から「あなたが一番読みたくなった
本」を1冊えらんで、図書館に置いている投票用紙にその本の番号を
書いて、投票箱に入れてください！！

（投票箱は図書館と日生図書室にあります。）

投票期間：令和4年2月25日（金）～3月19日（土）

★みなさんからいちばんたくさんのお票をあつめた本を3月23日（水）に
図書館・日生図書室・図書館のホームページで発表します。

どうぞ、お楽しみに！！

とうひょう
みんな投票
してね！



「いちばん推しているおすすめの一冊」をテーマにこどもの部には25点の紹介文の応募がありました。

応募の多数あったこどもの部は、図書館ボランティアグループ「いながわ図書館の会 リブロ」の皆さんが「推しの思いやメッセージが伝わること」などを選考基準とし、6作品を選出しました。皆さん、たくさんのご応募ありがとうございました。

①『地獄レストラン』^{じごく} 松谷 ^{まつたに} みよ子^こ／編 ^{へん} たかい よしかず他^え／画 ^{どうしんしゃ} 童心社 [児童:F]

紹介者:はる さん

ぼくがどうして地獄レストランの本をえらんだかと言うと、怖くておもしろい話
しなので読んでみようと思いました。もう一つの理由は一つの本の中にたくさんの
お話^{はなし}が書いてあるからです。地獄レストランの本の中で一番怖い話^{いちばん}しだったのは
「あの世の旅のご案内^{よたび あんない}」と言うお話です。生きているときにいいことをしている人^{ひと}
は、六文銭^{ろくもんせん}というお金を払ったら、舟^{ふね}に乗って川^{かわ}をわたれて まあまあという人は
あるいてわたれ、わるいことをしていた人は、ずうっと川下の毒^{どく}へびがうようよし
ているところをわたれと書いていたからその話を読んでぼくは、これからいいこと
をたくさんしようと思いました。他^{ほか}にもへんなお話やかなしいお話もあるし、この
本は、いっぱいシリーズがあるので、ぜひ読んでみて下さい。



②『5分後に意外な結末』シリーズ ^{ふんご} 桃戸 ^{いがい} ハル^{けつまつ}／編著 ^{ももと} 学研^{へんちよ}プラス ^{がっけん} [児童:F]

紹介者:かみかみ さん

ぼくが一番^{いちばん}推している本^{ほん}は、『5分後に意外な結末』です。『5分後に意外な結
末』は、一つの本の中に、二十七個のお話^{はなし}がはいっています。その二十七個の話
の中には、すこし怖いお話や、面白い話、あまり意味が分からないお話などが詰ま
っています。この5分後シリーズは、シリーズごとに色で分けられています。今ぼ
くが知っている色は、赤^{あか}、黄^き、青^{あお}、バターミルク、水^{みず}、白^{しろ}、黄土^{おうど}、の7つです。そ
の中でも面白いのは、青色です。青色は、5分後とはちがう5秒後シリーズで、絵^え
が沢山あって、お話^{はなし}がなんと!!百個あります。5秒後も5分後と同じで、怖い物^{もの}も
あれば面白いのなどがあります。5秒後シリーズは、子供^{こども}が読みやすい本で5分後
は、小説^{しょうせつ}が好きな人にオススメです!! 5分後シリーズにはもう一つ作品があっ
て、それが水色です。本の題名は、『5分後に思わず涙』と言う本です。思わず涙
は、読むと思わず涙してしまうお話です。(多分) 思わず涙は、5分後と同じで二
十七個のお話^{はなし}がはいっています。みなさん5分後シリーズのことを少しでも知れま
したか? 5分後シリーズは、本当^{ほんとう}にいい本なのでぜひ読んでみてください!! そし
て、5分後シリーズを好きになってほしいです!!

③『いいね!』

つつい ともみ / 著 ヨシタケ シンスケ / 画 あすなろ書房 [児童:F ツ]

紹介者:一颯 さん

ぼくの一番の推しの本は、筒井ともみさんがかいた『いいね!』という本です。ぼくがこの本を選んだ理由は、ヨシタケシンスケさんの絵がかいてある本だからです。

ぼくは、ようちえんの時からヨシタケシンスケさんの本が好きです。この本は、いろいろな話があって、その中で一番おもしろいと思ったのが、「でかいうんこ」っていいねという話です。

この話のあらすじは、学校のだれかがトイレで流れないほどの太いうんこを出すという話です。男の子は、鉄ぼうにぶらさがっても落ちるし、うですもうでも勝った事がないから、うんこにまけないくらいの筋肉をつけるために筋トレをします。ぼくだったら毎日筋トレをします。なぜ、「でかいうんこ」っていいね、という題名かというと、男の子が「ぼくもいつか、うんこヒーローになって、でかいうんこをしてみたい」といったからです。

このように、この本の内ようは、とてもおもしろい話しがたくさん入っています。みなさんもこの本を読んでみてください。



④『IQ探偵ムー』シリーズ 深沢 美潮 / 著 山田 J太 / 画 ポプラ社 [児童:F 7カ]

紹介者:K・S さん

IQ探偵ムーシリーズは、五年生の春に、茜崎 夢羽という女の子がとつぜんてんこうしてきて、そのムーという女の子が、いつもは、じゅぎょう中にねているのに成績がクラスで2番目にいいし、つぎつぎと、なんもんな事けんをといていく物語です。

なんもん事けんは、主人公でムーのことが好きな杉下 元と りゅうこうにびんかんでおしゃれな江口 瑠香とクラスで一番成績がいい小林 聖二とクラスで一番のくいしんぼうの大木 登とムーでなんもん事けんをといていきます。

私がIQ探偵ムーの本が好きな理由は、二つあります。一つ目は、シリーズが多いということです。シリーズが多いと次は、どんなお話なのかなと、きたいするのでいいと思いました。二つ目は、あきないということです。IQ探偵ムーは、いろいろな、なんもん事けんをかいつつしていくけど、ぜんぜんあきないからいいなと思いました。

ぜひ、みなさんもIQ探偵ムーを読んでみてください。

⑤『54字の物語』シリーズ 氏田 雄介／著 PHP研究所 [児童:F]

紹介者:ホットレモン さん

わたしがしょうかいする本は『54字の物語』という本です。『54字の物語』は、その名の通り54文字の物語です。この本がなぜ好きかというとその1つ1つの物語のあとに解説がついていてそれを読むことで、物語の意味が分かったり内容を深く知ることができるからです。解説を読んだからその物語のおもしろさやしかけが知れてとてもおもしろいです。それで解説を読んだ後にもう1回読むと新しい風景が見えてくるのでそういうところも好きなところの1つです。しかもこの本には1さつにお話がいっぱい入ってて1つ1つにくぎりがあるので小説みたいにと中で終わって、気になる～なんてことはありません。それでわたしは最初読んだ日からこの本が好きになりました。この本にはシリーズもいっぱいあります。わたしは動物の『54字の物語』が1番好きです。中には『旅する54字の物語』というのがある、それには47都道府県の54字の物語が入ってたんです。兵庫県のもあったので気になった人はぜひ読んでみてください！！



⑥『ふしぎ駄菓子屋銭天堂』シリーズ

ひろしま れいこ ちょ じゃ じゃ え かいせいしゃ
廣嶋 玲子／著 jyajya／画 偕成社 [児童:Fヒロ]

紹介者:本 大好き さん

銭天堂は紅子さんがえい業している駄菓子屋さんのお話です。その駄菓子屋さん(名前は銭天堂)はふつうの駄菓子屋ではありません。ふつうに銭天堂に行けるのではなく幸運のお客さんだけたどりつけます。幸運のお客さんはねがいごとを言って紅子さんがそのねがいごとにあつたお菓子をお客さんにえらびます。それか来た時からきまっていることもあります。お菓子の名前は、ダジャレになっています。たとえばイケ面、楽だお礼などいろいろな商品があります。食べるだけで、ねがいごとがかないますが、ふくさようがあります。ちゃんとせつ明書など読まないで大へんなことになったり、ねがいごとのこうかがきれてしまったりします。お客さんは、ふくさようを、守れるか守れないかとても、ドキドキします。でも、守らなくて、幸せになるときもあります。そこでよどみが、銭天堂の商売をじゃまします。よどみが勝負をさそったりいっぱいいやなことをします。紅子さんはそのいたずらをのりきります。その勝負のゆくえがきになっておもしろいです。読んだら止まらないおもしろさなのでぜひ読んでみてください。